

個人の社会的責任



総長・学長

ながい
永井 和之
かずゆき

卒業生諸君の卒業を心から祝福します。

諸君の卒業する中央大学は、現在、いわゆるロースクールやアカンテイングスクールといった専門職大学院をはじめ、既存大学院や研究所といった高度の研究教育機関、そして六学部といった陣容を整備している総合大学であります。

実際、本学の卒業生に、日本国内はもちろん、世界のいろいろな所で出会う機会があります。そして、それぞれが、頑張っています。卒業生諸君も、全中央大学の一員として、誇りを持って、それぞれの場において頑張っていて欲しいと考えています。さて、そのような卒業生諸君が出

ていく社会では、企業が社会的責任（CSR）を意識した活動に取り組んでいます。そうでない企業は小さくなっているとも思える状況にあります。それほど、企業の社会的責任

は社会の大きな潮流になっています。しかし、このことは、企業を構成している社員個人が個人的に社会的責任を果たしているとはいえません。もちろん、企業の社会的責任といっ

ても、その自身が社員個人のボランティア活動に依存しているという形もあると思いますが、多くの場合には、企業の社会的責任は個人の社会的責任が結びついているものではないと思います。

しかし、私たちが生活するこの社会、さらに広くいえばこの地球を、人類

のみならず、すべての生き物にとつて幸福な場所にするためには、個人の社会的責任も大事であると考えます。その個人の社会的責任はどのような状況になっているのでしょうか。ボランティア活動をはじめ、個人の社会との接点において、社会的責任という視点は拡大しているのでしょうか。確かに、NPO法人は増え、団塊世代の新しい社会活動としてボランティア活動が囃されています。しかし、社会全体から見れば、個人レベルの話としてそのような活動は少ないし、その比重も低いと考えられます。

そこで、卒業生諸君に言いたいと思います。自分の人生の一部に社会的責任を組み込んでいってください。これは何も難しいことや高額な費用、またはそれほどの時間を費やすことを求めるものではありません。自分の人生の中で、自然にできる範囲で社会的責任を組み込んで欲しいということがあります。

君たち卒業生諸君は、古代から現在までの人類の叡智を結集させる学問の府である中央大学において、様々な人類の叡智を学んできたこ

とと確信しています。そして、その叡智を、これからは社会に還元していくことを求められています。この人類の叡智を学んだ君たちが、社会という場において、おかしきことはおかしいと感じる感性を堅持し、誠実に人生を送って欲しいと願っています。そして、協力できることは協力するという人生を送って欲しいと願っています。

君たちが学んだ中央大学に対する社会の印象の中には、本学の卒業生が誠実であるということが含まれていると思われれます。これがまさに、私の誇りとしている本学の伝統であります。

そして、君たちの母校である中央大学は、君たちにそのような誠実さという勇気を与えられる大学として、厳然としてそびえ立つ大学であり続けます。諸君の母校である中央大学の教員として、母校の伝統を守り、発展させ、そして、新しい世紀に敢然として輝く新しい姿の中央大学を目指して、できる限りの努力をすることを諸君に約束します。

また、会いましょう。健康には留意してください。お元気で。

卒業の日に

世のため人のため自分のため



法学部長

かない たかじ
金井 貴嗣

大学に合格するために勉強し、資格試験や就職にむけて勉強し、もう勉強とお別れか……。

これからは、大学のカリキュラムに掲載されているような「○○学」というような学問をすることはないのである。それかわって、企業なら「どのような製品を作ったら消費者に好まれるか」、公務員なら「地域住民本位の行政とは」等々、現実の社会に密着した形で、目標を立て、その達成手段や実行の工程等々について考え、悩み、決断し、失敗し、改善し……と、日々、トライアル・アンド・エラーの連続である。

○○学が直接役に立つことはないであろう。しかし、いま、消費者が何を求めているか、地方公共団体は今どのような状況に置かれているか等々。今度は、新聞を読み、先輩や

専門家の話しに耳を傾け、必要とあればヒアリングに赴き……。そうして、自分の知識のなさや考え方の甘さを実感し、「これではあかん」と。

今度は、○○学ではなく、「自分のカリキュラム」を自分で作らなければいけない。その中には、企業の経理・営業や、地方公共団体の財政・法務等が組み込まれるであろうが、それに加えて、自分用の「人文科学」も是非入れて欲しい。いわゆる「教養」を磨くためである。小説を読み、歴史書を繙くことによつて、日々、考え、悩み決断する「自分」を見つめ直すことができるようになるだけに、大きな決断」をするときに役に立つ。通勤電車の中こんな時間に費やすだけで、自分自身の生活がずいぶん豊かになるはずである。

学びの連続



経済学部長

まつまる かずお
松丸 和夫

ご卒業おめでとうございます。まさに経済学部での学びを終え、次のステージへと羽ばたかんとする卒業生のみなさんに心からお祝いを申しあげます。

今日、新たな門出をされる皆さんに考えていただきたいことが二つあります。一つは、自分は大学で何をしたのか。二つめは、これから自分は何をしていくのかということです。

大学を卒業するということは、本人のみならず、御父母やご親族にとつても喜びです。しかし同時に、社会には大学を卒業しないで働き、生活している人々が多数います。大学の「大衆化」が進み、今日では大学卒業の学士号それ自体希少価値の小さいものとなりました。しかし、4年間の大学生活で何も身につけなかったとしたらそこに何の意味があ

りましょう。私は、大学卒業生にもとめられる資質の一つとして、自己分析を客観的におこない、環境の変化をきちんと認識できる知的能力が大切だと考えます。そして周囲に流されるのではなく、流れを作り出す能力を養ってほしいのです。

大学の外の社会では、みなさんの想像を超える厳しい試練が待ち受けています。しかし、どんなに困難なときでも冷静に事態を分析し、最も合理的な選択ができるためには、ねばり強さが必要です。

さて、このようにいわれて「不安」を感じる人がいたら、それは正常な感性の持ち主であることの証です。大学では身につけ得なかったことを負の財産と考えずに、「だからやるべきことがたくさんある」と前向きに取り組んでいただきたいと思えます。人の一生は、学びの連続です。どうか活躍ください。

肩肘張らずに、愚直に



商学部長
さかいしろうさぶろう
酒井正三郎

ジを切ってきています。個人の好き嫌いを超えて、このような力が個人に向かつてかかってくる時代、それが今という時代です。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。学窓を巣立つ今、皆さんの胸をよぎるものは何でしょうか。これから始まる社会人としての新しい人生への期待感でしょうか、それとも自分が選択した進路に対する一抹の不安感でしょうか。おそらく、そのいずれでもあるというのが正直なところだろうと思います。私は皆さんの進路がいかなるものであれ、一人ひとりが自分の信じる道を肩肘張らずに、愚直に歩んでいかれるようにと願わずにはいられません。

前世紀末の冷戦構造の崩壊以来、世界大でのグローバル化の波が押し寄せ、この日本の社会においてもあらゆる分野で大きな変化の波が押し寄せています。「実力主義」や「成果主義」などと呼ばれているとおり、世の中の価値観の多くが競争による結果が最優先という方向に大きく力

こうした時代を生きる上で大切なこと、それは本をたくさん読んで知見を広め、それによって第一に、自分が置かれている状況を論理的に把握する力を磨くこと、第二に、自分と異なった見方に気づき受け容れることを通じて打たれ強さ（最近の流行では「鈍感力」と呼ぶらしい）を身につけること、です。

世の中には多くの情報で溢れています。個人には無限の選択肢が、他のより安易な可能性が開かれています。そのような幻想がふりまかれています。しかし、まずは自分が選択したこと、に真つすぐに、とにかく一生懸命打ち込むことなしに本物の何かを掴むことはできません。知的緊張に耐え辛抱強く取り組むことではじめて見えてくるものがあるはず。長い人生です。肩の力を抜いて頑張つてほしいです。

「知的」体力に自信あり



理工学部長
たぐち あずま
田口 東

ご卒業おめでとうございます。皆さんは理工学部、理工学研究科において何を得たでしょうか。第一は、専門分野の知識でしょう。科学技術の進歩は早いので、それが古くなってしまうことがあります。しかし、どのように勉強すれば必要な知識が得られるのかという方法論には賞味期限はありませんし、どのような場面でも有効に使えらると思います。

第二に、卒業論文、修士論文としてまとめた成果です。内容そのものは、その内にお蔵入りとなる運命にあるかもしれません。しかし、それをまとめ上げるプロセスで得られたものがあります。最初は、ほとんど手探りの状況の中で、問題らしきものを見つけたでしょう。他の研究者の取り組みを調べながら、自分で答えを知ることが出来る問題の形を作り、自ら考えた方法を試しなが

ら、成果にたどり着いたと思います。その途中には、ねばり強い試行錯誤の繰り返しと、潔い撤退と、ほんの数回の、しかし大変に嬉しい成功があったと思います。研究室での議論やアドバイスを、外の研究発表会における交流の中で研究を進めてきたことは、貴重な体験に違いありません。このような自主的な研究体験は、ここでしか得られない貴重な財産でありますし、それを経験しなかった人に対する大きな優位点となるでしょう。

このように理工学に基礎を置く、知的な体力が身についたということ、を、大きな自信を持っていただきたいと思えます。そして、この知的体力は、研究分野が異なってももちろん通用する訳ですから、新しい問題、新しい分野に果敢に挑戦して、新しい技術、分野を開拓されることを大いに期待しています。

自分の道



文学部長
宇野の茂彦
うの しげひこ

ご卒業おめでとうございます。
「人生にはどうしても自分自身で決めなければならぬことが三つある、大学と就職と結婚だ」これは中学の恩師からうかがった言葉です。皆さんはすでに大学を選び、卒業して第二の分れ道の選択も果たしたかあるいはこれから考えようという段階なのだと思えます。

人には職業選択の自由があるとは言いますが、能力や適性やもろもろの制約があつて、希望通りにはいかないことは、すでに経験済みでしょう。職業選択は天賦の権利だなどと思つてしまうと、期待にはずれた出来事が起こるたびに、つい不満がでて、必要以上に苦しむことになる。花盛りの道、目的地に近い道、居心地のいい道と人は考えます。お金がすつと落ちてきている道、あれば私も歩いてみたい。でも、そもそも道中

一定の道などありませんし、あれば辛いというべきですが、退屈でもありましょう。途中で分れ道も出るでしょうが、そこでまた決断です。さまざまな道があつても、複数の道を同時に踏むことは出来ないのですから、精々今歩く道を自信をもって歩いて欲しい、よしや荊の道に遭うとも、そこを切り抜けていくのが自分の道に他ならないのです。

学生時代におもしろい歌を耳にしました。「海原に舟行く道はなかりけり舟行く道ぞ舟の道なり」というのですが、この歌がどなたの作か、また、どのような状況での作は知りませんが、人生を譬えるとすれば、言い得て妙だと思えます。このような自意識で人生を送れたなら、それは満足すべき人生だと思えます。どうぞお元気で。

「知性と理性、歴史と体験」



総合政策学部長

おおはし まさかず
大橋 正和

卒業おめでとうございます。
「知性は、可能か不可能かを、理性は、良識のあるなしを判断する。可能だが良識に欠ける判断もある。」(マックス・ボルン)という言葉がある。近年、コンプライアンスやCSRという言葉をよく聞く。卒業して社会へ出ていく諸君や大学院等でさらに勉強しようと志している諸君は、知性ばかりでなく、理性を發揮してこれからの人生を悔いの無いようにがんばつてほしいと願っている。

「賢者は歴史に学び、愚者は体験に従う」というビスマルクが言った有名な言葉がある。

この言葉の意味は、賢者は、自分の体験や考えばかりで物事を理解するのでなくその原因や背景や世の中の変容などを考えて自分の経験や体

験を普遍化することにより共通の原理や法則を見つけ出す事が重要だと言ふことである。ここでいう歴史は、日本史、世界史など個別の歴史をさすのではなく世の中の出来事を普遍化した代表としての学問を指している。20世紀の後半になってから現代社会の変容はすさまじい勢いで進んでいる。卒業生諸君は、このような変容が激しい21世紀の世の中に出て活動をしなければならない。高校までの体系づけられた教育の基礎の上に大学の自律的に学び学習する能力を元にしてこの変容の激しい社会システムを理解し自分の体験をふまえて新しい社会を築く気構えで活躍されることを切望する。その際は、是非知性ばかりでなく理性をお忘れ無きように……。